

人とともに 地域とともに 島根大学

# \*shimadai

 広報しまだい  
Shimane University



[特集1] 学長 × 田部長右衛門氏  
スペシャル対談

## 産学連携による 持続可能な地域づくり

vol. **55**  
shimadai

2023.7

[特集2] 衝撃緩和に優れた畳床の開発



服部学長(以下学長) 島根県人口の社会減は、進学や就職を伴う20歳前後が多く、課題の一つです。そんな中、まずは入試で地域枠を設けるなど県内の高校生に進学してもらえようという取り組みを進めています。今春入学した学生の県内出身率は26・7%と過去5年間で最も多くなり、2020年度比で5ポイント増。また卒業後の県内就職率向上に向けても、「しまね産学官人材育成コンソーシアム」などを通じて県や産業界と共に取り組みを加速させています。

### 産学官が協働して 人材育成を加速

東京一極集中や、若者の地方からの流出を背景に、「地域の知の拠点」である大学と、地方自治体や地域の企業が協働して、地域が求める人材を育成する「地方×大学」の取り組みが全国的に進められています。「しまね産学官人材育成コンソーシアム」でも中心的役割を担う、島根県商工会議所連合会の田部長右衛門会頭と服部泰直学長に、持続可能な地域づくりに向けた思いを聞きました。

田部さん他、関係の皆様を協力を得て昨年度から、県内企業からの寄附金を財源とした「県内定着奨学金制度」もスタートしました。卒業後に県内での就職・定着を希望する学生に、在学中から経済的支援を行う制度です。

田部会頭(以下会頭) この制度は、我々経営者側と、学生を送り出す大学側のコミュニケーションの中から生まれました。実は我々企業にも大きなメリットがあります。制度を通し、大学や学生、その保護者の方々に企業について興味を持って頂けますし、直接インターンシップを受け入れることもできます。学生、大学、地域、企業——誰にとっても良いことづくしの事業だと思っています。

学長 企業が在学中の学生に寄り添ってくださることを、少し前までは発想もできませんでした(笑)。コロナ感染症が少し収まり、企業のトップの方と直接会って話ができるようになったことで、お願いもしやすくなりました。

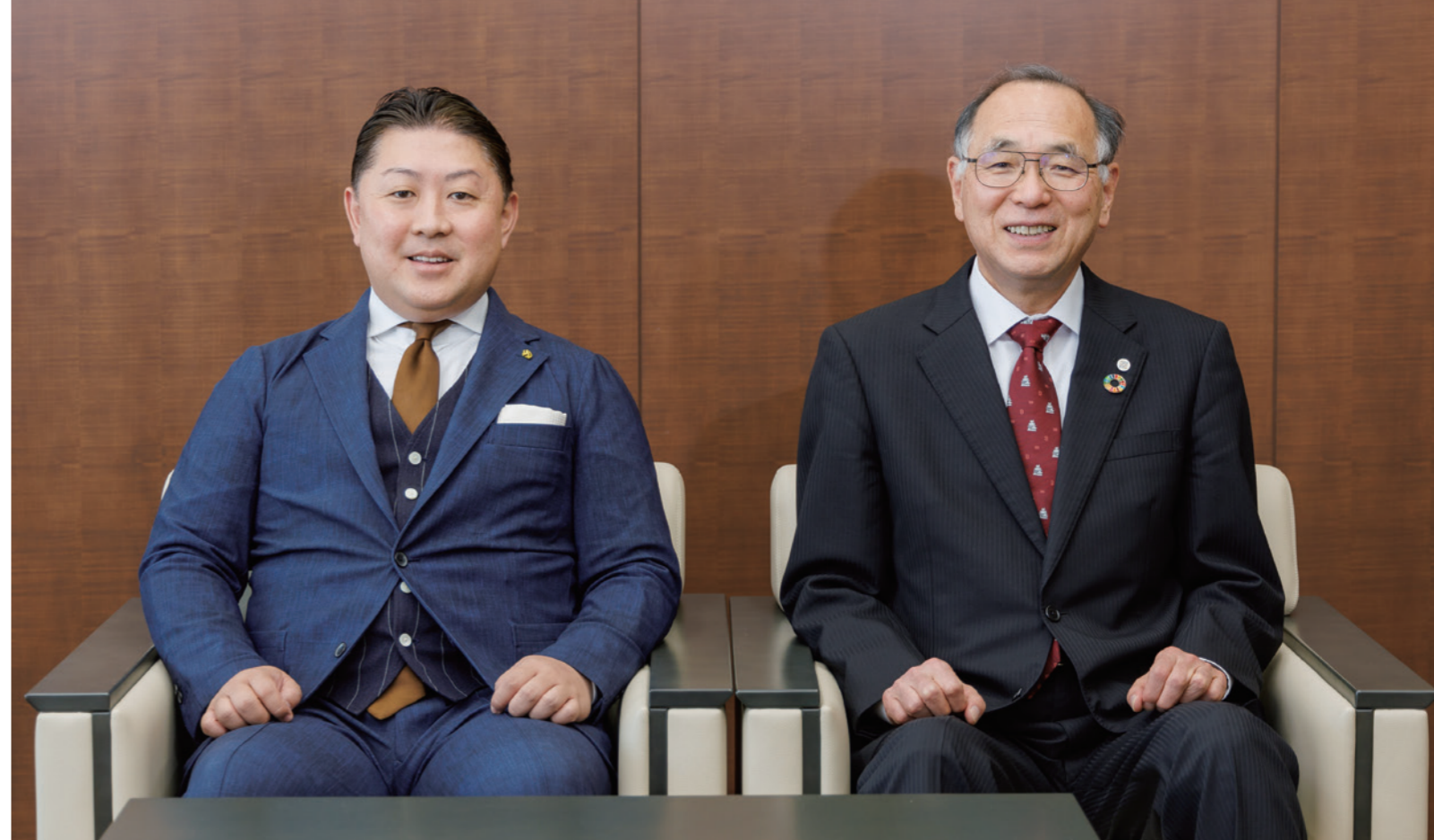
会頭 直に会うことで、オンラインでは伝わらない熱量が届いてきました。寄附することによって、県内就職率が上がり、若者が定着してくれるのであれば、このお金は



山陰中央テレビジョン放送株式会社のオフィス内

と生きていきます。我々も恩恵を得ることができず、メリットしかありませんよ。

若い人の目を県内に向けたためには、企業は賃上げや仕事内容だけでなく、職場環境の向上にもっと注力すべきだと考えています。例えば、いくら給料が高くて魅力的な仕事内容だとしても、オフィスが汚ければ毎日通いたいでしょ。私が社長を務めるTSK(山陰中央テレビジョン放送株式会社)は2年前、それなりのコストをかけて社内を改装。おしゃれで過ごしやすく、クリエイティブな環境になったと自負しています。良い人材を育てるために



島根県商工会議所連合会会頭

田部グループ代表

山陰中央テレビジョン放送株式会社 代表取締役社長

島根大学 学長

# 田部長右衛門 × 服部泰直

TANABE CHOUEMON

HATTORI YASUNAO

特集1 学長スペシャル対談

## 産学連携による 持続可能な地域づくり

### vol.55 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 ..... 07
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
  - ①教育学部 作野 広和 教授 ..... 09
  - ②材料エネルギー学部 八代 圭司 教授 ..... 11
- 社会で活躍する卒業生 ..... 13

- しまだい便り ..... 15
- 島根大学支援基金より ..... 17
- 読者プレゼント ..... 17

企画・制作  
株式会社メリット  
デザイン  
有限会社node  
タイトルロゴデザイン  
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

表紙/島根県商工会議所連合会会頭・田部長右衛門氏と山陰中央テレビジョン放送株式会社に。

人とともに 地域とともに 島根大学

\*shimadai  
広報しまだい  
Shimane University  
2023.7 vol.55

[特集1]  
学長スペシャル対談  
島根県商工会議所連合会会頭 ..... 01  
田部長右衛門氏

[特集2]  
衝撃緩和に優れた畳床を開発 ..... 05





「観光教育プログラム」で訪れた和銅博物館(島根県安来市)で天秤(ふいご)を体験する学生

や歴史がないことだと考えています。そういう意味で島根は、堂々たる「都会」だと自信を持って言うべきです。

ただ残念なことに、この土地に暮らす人々がその土地の歴史をあまり知りません。もつと歴史教育に注力すべきだと痛感します。

観光という側面からも、教育に注目しています。東京で学べないことを島根で学んでもらう「教育ツーリズム」は、ニーズが高いと考えています。

学長 伝統を継承しながら、新たな知の価値観を創造していくのが大学の役割。また、学生がキャンパ



は環境改善も不可欠です。

学長 本当に素敵な空間ですね。田部さんには、企業の社長に一日中密着する「かばん持ちインターンシップ」でも学生がお世話になっていて、経営者哲学を学べるいい機会を頂いています。

県内出身の入学者数が増えたとはいえ、約4分の3は、県外からの学生です。持続可能な地域を創っていくためには、県外からの学生に島根の良さを知ってもらい、いかに残ってもらおうかということも大切だと考えています。

### 島根にある本当の「贅沢」を自信を持って発信する

会頭 東京一極集中が叫ばれて久しいです。確かに、都会には素敵なカフェやレストラン、アミューズメントパークなど人を惹きつけるスポットが多く、そして非常に便利です。しかし、魅力的なスポットの多さや利便性の良さは、「心地よい暮らし」とイコールではないような気がします。物質的な充足感や利便性が生む幸福感と、本来人間が求めている幸福感は違う、と私は思います。

三ツ星のフレンチレストランで高

級な食事を頂くのも、贅沢でしょう。一方、私たちが提案する贅沢は、例えば山の中の清流が育んだ米を、その水で研いで炊いた「ご飯」です。機械で精製した水で炊いたご飯とは、まるで味が違います。

毎日数時間かけての通勤や通学、人混みの多さなど、都会での暮らしに疲れている人もいます。一方島根では、目をつぶると、鳥や虫の声、川のせせらぎが聞こえてきます。車のクラクションや工場の機械音など人工的な音が全くしない空間があるのです。本当の贅沢とは何か。今、多くの人が気付き始めているのではないのでしょうか。その表れの一つが近年のキャンブームのように感じます。

学長 大学でも以前からフィールドワークに力を入れています。パトロールでは分からない実体験を得て、島根の魅力を学生たちに感じてほしいと思っています。

会頭 島根には豊かな文化もあります。文化果つるところは減びているーと歴史も証明しています。利己的に走ることでその時代が終わっていくことは往々にしてあります。文化や歴史は一から簡単に作れません。継承していくものです。私は、田舎の定義とは、文化

伝統を受け継ぎつつ、  
新しい価値創造をする  
不易流行の精神で  
大学経営を。



服部 泰直  
1956年長野県生まれ。  
1993年4月島根大学理学部助教授、1995年6月島根大学理学部教授、同年10月島根大学総合理工学部教授、2011年10月島根大学総合理工学部長、2012年4月島根大学大学院総合理工学研究科長。2015年4月に島根大学長に就任。趣味はサッカーで、国体出場経験も。

スから出たり、学外から講師を招いたり、実社会とのつながりを持った学びで地域を知ることがより求められているのだと感じています。

特別専攻プログラムで観光教育を行っています。まだまだ一部分。少しでも地域を知ってもらうために、例えば島根県内に七つある日本遺産をテーマごとに深く掘り下げていってはどうかと考えています。学生が学んだ文化や歴史、先人の知恵などを、自然の中で都会の子どもたちに教えていく。田部さんが仰るような「教育ツーリズム」は面白いと思います。

### コンテンツの質を上げ 地方に人を呼び込む

会頭 日本の人口減少は避けられませんが、そんな中、地方に人を呼び込むには、食の質、医療の質、そして教育の質を上げていくしかありません。島根はその可能性を秘めていると思っています。

今春、島根大学には材料エネルギー学部という新学部ができ、新素材開発などに注力していけることと思います。そんな中、特

許取得などの需要も多く生まれていくでしょう。経済界と大学が一緒になってスタートアップ(起業)を進めていければと思います。起業することで時代を創ることができるといふことを若い人たちに知ってほしいし、私たち産業界はそれを後押ししたいのです。

学長 大学教員の意識は、どうしても自身の研究に向きがちです。それは研究者として当然なのですが、社会の要請に耳を傾けることも大事です。産業界の支援を得ながら、教員自身も研究成果・技術をどのようにしたら社会に活かすことができるかを考えていけば、大学は大きく変わると思います。

会頭 島根には、さまざまな側面で「材料」が揃っています。今後大切なのは、この材料を「目利き」し、「料理」すること。例えば、大学の研究にも「金の鉾脈」が数多くあります。目利きできる経営者と、料理できる研究者がタッグを組めば、新たな価値が多く生まれるはずなんです。

学長 大学にとってもありがたい話です。是非一緒に進めていきましょう。

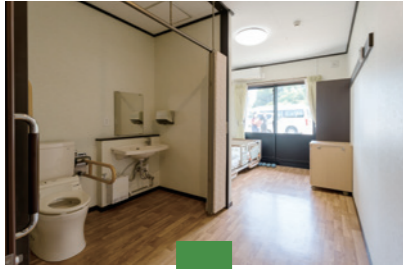


田部 長右衛門  
1979年島根県生まれ。  
2002年中央大学法学部卒業、株式会社フジテレビジョン入社。2010年に島根県へ帰郷し、株式会社田部をはじめとした家業を継承。2015年、第25代田部長右衛門を襲名。2016年に山陰中央テレビジョン放送株式会社の代表取締役社長に就任。2019年11月、島根県商工会議所連合会会頭に就任。

大学と産業界がタッグを組み、  
島根に揃う魅力的な材料で、  
本当の贅沢を提案する。



before



after



高齢者福祉施設での施工の様子。参加した建築デザイン学科の学生にとっても、新しいものを社会の中にどのように広げ、当たり前のものにしていくのか、その最初のステップを経験する貴重な機会になりました。

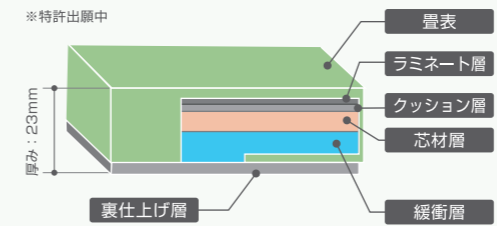
## 転倒時の衝撃緩和性能と歩きやすさを実現

床の変形量を特殊な装置を用いて可視化

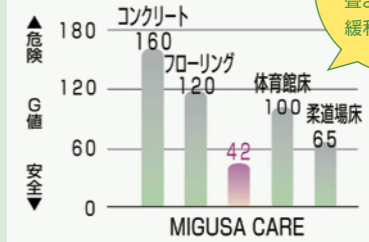


島根大学 総合理工学部建築デザイン学科 清水貴史研究室測定

### MIGUSACARE 断面構造



### 転倒時の衝撃測定結果



積水成型工業株式会社の資料をもとに作成

健康寿命の延伸を目指した安全で快適に暮らせる空間づくり  
**衝撃緩和に優れた畳床を開発**

清水准教授は、高齢者施設、児童養護施設、医療機関（特にリハビリテーションセンター）の床に、転倒時の安全性の配慮がほとんどなされていないことに注目。2017年から緩衝性能を持つ床材の開発に取り組み始めました。工学的技術と知見を用いて開発した床材は、医学的に高齢者の歩行状況を分析し、さらに安全性の高い床材であることが確認できました。

社会実装に向けて、中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会が、圏域内の高齢者福祉施設とのマッチングを支援。5月17日には社会福

**地域での「医工連携」で安全な空間づくりを**

様々な床材で転倒時の緩衝性能を測定した結果、従来の衝撃緩和型床材と比較して、薄型でありながら高い緩衝性能を発揮しました。

社法人みずうみが運営する施設の一室で施工を行いました。実際に敷き詰められた様子を確かめた関係者からは、柔らかいながらもしっかりと安定して歩ける性能に感心する声などが聞かれました。

今後は、現場活用により得られる情報を基に、さらなる開発を進め、緩衝性能の向上と共に薄型化を目指しています。また、木質フローリングやシート貼り仕上げの床にも緩衝性能を付加できるよう、高緩衝性床下地材としての開発も進めています。

床の安全性を高めることの重要性を社会に伝え、さらに安全な空間づくりに貢献していきます。



高齢者福祉施設で研究の経緯や概要を説明する清水准教授。

高齢者施設などでの転倒時の衝撃を緩和し、安全性を高める畳床が、総合理工学部建築デザイン学科の清水貴史准教授と企業の共同研究で開発されました。「医工連携」として注目を浴びるこの取り組みの目的や、今後の展開について紹介します。

**衝撃緩和の研究成果を転倒事故対策製品へ**

内閣府の「令和4年版高齢社会白書」によると、高齢者が要介護となる主な原因をみると、「認知症」が18.1%と最も多く、次いで、「脳血管疾患（脳卒中）」が15.0%、「高齢による衰弱」が13.3%、「骨折・転倒」が13.0%となっています。

総合理工学部建築デザイン学科の清水貴史准教授は、日常的に起こりやすい住宅内での転倒による衝撃を緩和する性能と、歩行性を両立させた畳床を、積水成型工業株式会社との共同研究により2022年11月に開発。「MIGUSACARE（ミグサケア）」と名付け、積水成型工業株式会社の出雲工場が生産、今年1月から販売をスタートしています。

この畳は1枚83センチ四方の正方形。採用された緩衝構造は、板材と緩衝材の適切な組み合わせについて研究した成果により得られたもので、板材（芯材）と緩衝材の物理特性のバランスを検証し、踏み込んだ際に沈みすぎないようにすることで歩きやすさも実現しています。







## 留学生・留学体験紹介



FROM



出身国

**ポーランド**

(アダム・ミツキェヴィチ大学)

コンスタンチュク・マルタ

**KONSTANCIUK MARTA さん**

(法文学部 日本語・日本文化研修 留学生)

## ニュージーランド医学・看護学研修に参加



1.

2.

3.

1. 滞在都市・ハミルトンにある柔道クラブで練習に参加した際に撮った集合写真(前列右から2番目が田村さん)。2. Waterford Birthing Centre(水中出産を行える施設)を訪問し、助産師の方に質問する様子。3. 海辺の街へホストマザーとドライブに行った際に一緒に食べたフィッシュアンドチップス。



留学先

**ニュージーランド**

たむら たいち  
**田村 泰地さん**  
(医学部 医学科 3年)

## 海外の医療や文化に触れることで 医療者に必要な国際的視野を養う

グローバル化が伸展していく中で、コミュニケーションツールとしての英語学習のみならず、海外の医療や文化を理解することも今後必要になってくると考え、研修に参加しました。2週間の研修では、医学英語やニュージーランドの医療制度の特色を学んだほか、現地の医療機関を訪問して、そこで働く方々のお話も聞くことができました。多民族国家として異文化を認める包容力を感じた一方で、国家運営の難しさも感じました。

滞在中はホームステイをしていましたが、滞在先の近くの柔道場で、現地の方と一緒に柔道の練習をしたことがとても印象に残っています。私は9歳から柔道を続けていて、せっかくなら現地の方と柔道をしたかと思いき、事前に柔道クラブにアポをとりました。皆さん歓迎してくださって、4回練習に参加させてもらうことができ、友好の証としてその道場のユニフォーム

をいただきました。ホームステイ中は一切日本語を話さない環境でしたが、頑張ることに気づき、英語を話すことへの抵抗がなくなりました。もう少し英語が話せればもっと深く交流できたのにと思う場面が多々あったので、英語学習を継続するとともに、長期留学も視野に入れながら、国際交流の機会があれば積極的に参加したいです。

**MEMO**  
**ニュージーランド医学・看護学研修(海外研修A)とは?**  
医療英語のレッスン、ニュージーランドの文化や医療制度に関する講義、現地の学生や医療関係者との交流を通じて、医学英語の基礎力向上とともに医療人としての国際性を身につけることを目的としたプログラムです。ニュージーランドのワイカト工科大学の協力のもと22名が参加しました。

## 伝統文化が息づく島根の地で 和菓子や神楽などに直接触れる

高校生の頃から日本に興味を持ち、日本には3回くらい旅行で来ましたが、できれば留学して日常生活の中で日本語を学び、文化を体験したいと思っていました。島根大学のある島根について調べると、茶道の文化や豊かな自然、神楽があることを知り、絶対に島根大学に行きたいと思ひ、推薦をもらうために頑張りました。

来日後、すぐ新学期が始まったので、生活に慣れるのは大変でした。私は人見知りなので、出かける時はいつも緊張していましたが、松江の人はとても優しく、話しかけるとみんな笑顔で応えてく

れました。最も印象に残っているのは、友人に誘われて温泉津に神楽を見に行ったことです。神楽を鑑賞した後、温泉津舞子連中の方に大蛇の頭を見せてもらい説明していただけたので、とても勉強になりました。伝統文化の大切さを再認識するとともに、伝統文化をどのように守っているのかも少し理解できたと思います。

卒業後は母国の大学院に進学し、神楽についてもっと研究したいと思っています。私が実際に体験した和菓子や神楽の良さを、自分の国はもちろん、世界に紹介したいです。



1. 日本人の友人と一緒に、温泉津の龍御前神社で神楽を鑑賞した際の一コマ。2. カラコ工房で初めて和菓子作りを体験。彩雲堂の職人さんに教えてもらいながら春の和菓子を作りました。



# 自発的な運営組織を構築し、 住民と協働で地域づくり 未来志向の地域創出へ

経済重視の活性化より  
一人一人の幸せを

「人口減少と高齢化が進み、従来の地域の仕組みやシステムを窮地に追いやっている。これが中山間地域の現状です」と作野教授。「対して、国や自治体が良かれと思って進めてきた政策がいわゆる『地域活性化』。しかしそこに暮らす多くの人々が望んでいるのは、今ある幸せな暮らし。選択肢の一つに活性化があるかもしれませんが、そこまで頑張らなくてもいい、と思っている人も多いのが事実なのです」。長年、中山間地域に足を運んできた作野教授は、都市を基準に経済的指標で進められてきた政策に異を唱えます。

バブル景気真っ只中の1990年に制定された過疎地域活性化特別措置法は、過疎地域の賑わいや活力創出を目的とし、定住人口や雇用の拡大が進められました。しかし、そもそも地理的条件が悪く、農業の生産条件が不利な地域と規定されているのが中山間地域。「国などが意識している経済的な地域活性化はそもそも無理。右肩上がりに成長を続けた昭和の価値観をいまだに引きずった政策は、現場とズレているのです」。地域には、儲からなくても先祖代々の土地を耕し続ける人や、豊かな自然環境を求めて都会から移住してくる人もいます。「経済以外の指標で幸せを感じる人々がいるのです」。

作野教授は、島根県や兵庫県に六つの研究室分室(ラボ)を置くなどして、地域住民と協働で地域づくりを進めています。人口減少が進み、価値観が多様化する中、農業生産と結びついた従前の地縁型のつながりは継続が困難になり、形骸

## 地域にラボを設置し 研究と実践を推進

化しつつあるのが現状です。そこで作野教授が提案するのが、多様な意見が交わされる『この指止まれ』型の地域運営組織です。

「女性や若者、子どもらに加え、地域の企業や学校で働いたり学んだりしている関係人口も取り込み、そこで生きる人たちが自身が自ら暮らしやすいビジョンを考えていくのが大切なのです。キーワードは、縮充。小さくなっても多様な物差しを作れば、人は幸せになります」。昨春、島根県外で初めてラボが設置された兵庫県佐用町では、行政を挙げて縮充をテーマにした協働のまちづくりをスタート。フィールドワークを重視する作野教授や学生も現地に入り込み一緒に

なっていく地域づくりを進めています。今後の研究テーマの一つに掲げるのが、『知の過疎』です。「単なる学力低下という意味ではなく、正しい意見が否定され、本心に住みたい人が出ていってしまう状況。旧態依然の価値観を押し付けられ、存在を否定されるようなことが人口減少より高齢化より何より怖いんです。さらなる過疎化は避けられません。でも未来志向の地域を目指していくことは可能だと考えています」。

世界に先駆けて人口減少と高齢化が進む日本。中でも国土の約7割、県土の約9割を占める中山間地域では既にピークを迎えたとも言われています。長年、中山間地域の集落やコミュニティを研究してきた社会学部専攻の作野広和教授は、地域を維持していくための地域づくりを住民と協働で進めています。



PROFILE  
教育学部 社会科教育専攻  
作野 広和 教授  
さくの ひろかず

島根で生まれ育ち、島根大学卒業。当時の研究テーマは都市でした。衰退していく田舎を学ぶ気は全くなかったのです(苦笑)。大学院在学中に中山間地域の素晴らしさと課題を知り、同時に両親の実家がある田舎で遊んだ原体験も呼び起こされ、今の研究につながりました。



1



2



3

1. 6番目のラボである「さよラボ」を置く兵庫県佐用郡佐用町にて。空き家調査を行う地理学ゼミの学生。2. さよラボでの住民協議の様子。3. 飯南町での現地調査をもとに、地域づくりのためのアイデアをまとめる学生。4. 邑南町での聞き取り調査の様子。

4

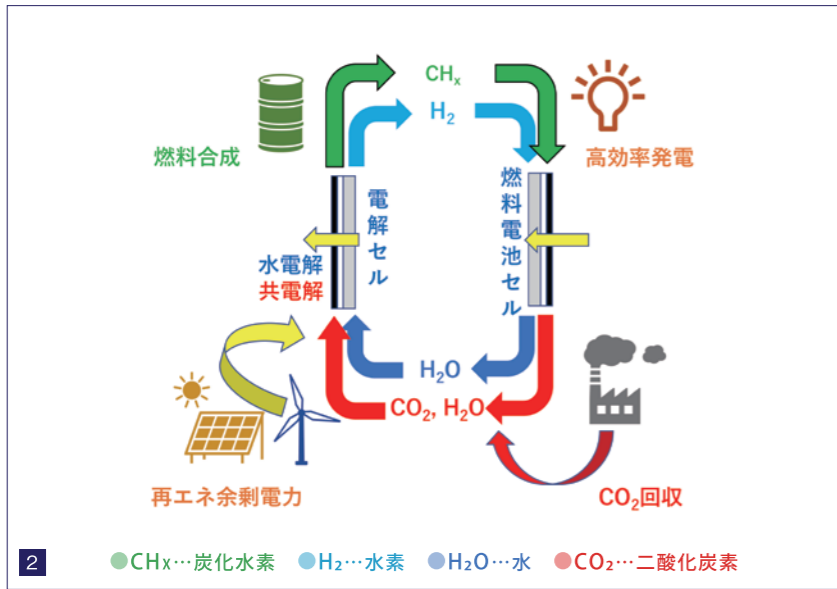
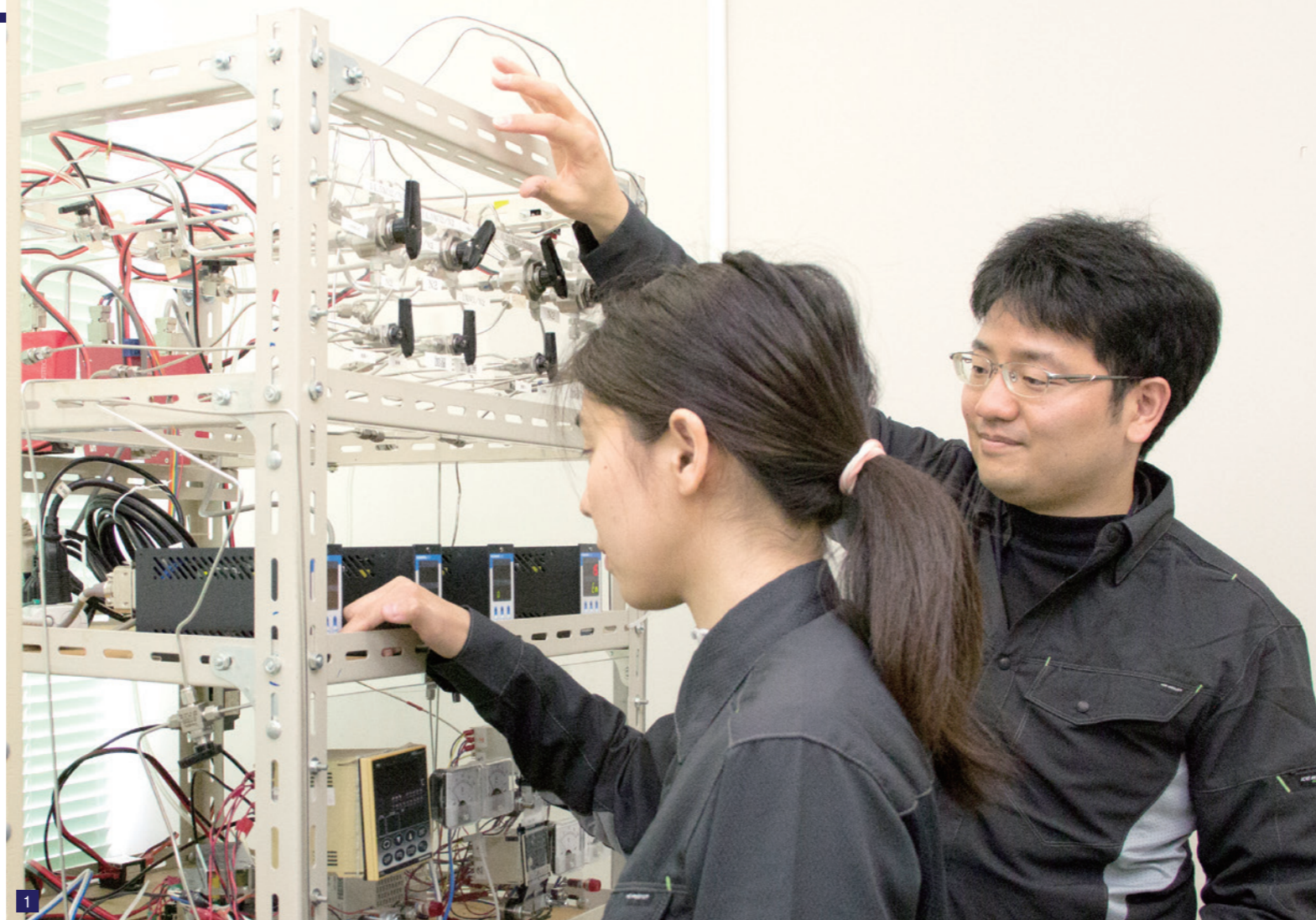


# 高効率な燃料電池や 効果的な電解の実現で CN社会の実現を目指す

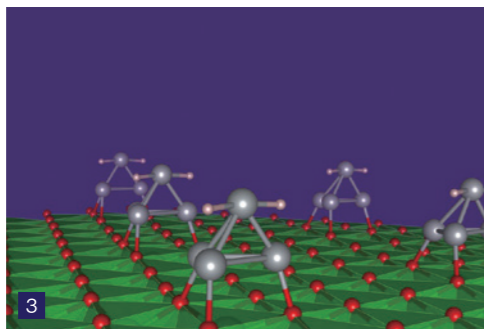
(カーボンニュートラル)

## イオニクスをベースに 材料やデバイスを開発

電子の現象を扱うエレクトロニクスに対し、プラスかマイナスの電気を帯びた状態の原子・イオンの動きを科学するのがイオニクスです。「イオン導電体の特徴は、電気を流しながら同時に化学反応を起こせる点です。たとえば皆さんに身近なスマートフォンの中にもイオンが流れています。化学反応が起きたと同時に電気が流れ、それを取り出して使っているのです」と八代教授。イオニクスの中でも八代教授が力を入れている研究が、水素と酸素の電気化学反応によって発生した電気を、継続的に取り出すことができる燃料電池です。



1.八代教授が自作した燃料電池発電試験装置で、セラミックの燃料電池(SOFC)の発電試験を行う様子。写真右が研究室を一体運営する藤崎助教。2.カーボンニュートラルを目指すカーボンリサイクル社会の概念図。3.ジルコニア電解質上に担持されたニッケルナノ粒子に対し量子化学計算によって水素吸着を再現した様子。



「熱エネルギーを経由しない反応なので熱機関の理論効率の制約を受けない上、化学反応のスピードをコントロールできるため、高い発電効率を実現できます。水素と酸素の反応で水が生成されるだけで廃棄物が排出されない点も、クリーンなエネルギーとして注目されています」。ただ現在、原料となる水素の多くは天然ガスの主成分であるメタン、つまり化石燃料から作られているため、ゼロカーボンというわけにはなりません。

## 鋼の聖地、島根で 金属材料の活用も狙う

そんな課題を解決する手段として八代教授が着目するのが、電解です。水に電気をかけて分解すれば水素と酸素が放出されます。この時活用する電気が、太陽光発電などで生み出された再生可能エネルギーの余剰電力であれば、電力を無駄なく使える上、水素も生み出せるというわけです。「余剰電力の貯蔵手段として蓄電池がよく知られていますが、高額な上、原材料のリチウムは南米チリなどに偏在

カーボンニュートラル(CN)社会の実現に向けて重視されているのが、温室効果ガスの85%を占めるエネルギー分野の取り組みです。材料エネルギー学部の八代圭司教授はイオンの現象を扱うイオニクスをベースに、発電効率が高い燃料電池や再生可能エネルギーの余剰電力を貯蔵できる電解セルの研究を進めています。



### PROFILE

材料エネルギー学部 材料エネルギー学科

八代 圭司 教授  
やしろう けいじ

研究室を一体運営している藤崎貴也助教も今春、同じ東北大学から一緒に移ってきました。材料開発の分野でも機械学習の導入が進み始めています。計算科学を得意とする藤崎助教と共に研究を進め、データ駆動型の材料開発を体現したいと考えています。

しており、地政学的にも供給リスクが高いです。一方、電解は、電気さえあれば簡単に行うことができます」。しかしせっかく水素が生み出されても、水素は貯蔵と輸送の効率が低く、供給インフラも整っていません。エネルギー供給の低炭素化の実現は容易ではなく、実用化に向けた研究を多方面で同時に進める必要があります。八代教授は、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)と水蒸気を一緒に電解して合成燃料製造に繋げる研究を通して、CO<sub>2</sub>の資源化利用にも取り組んでいます。

今春、東北大学から赴任した八代教授。新天地での研究テーマの一つに掲げるのがNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)のプロジェクトに参画して挑んでいる、金属とセラミックスを複合化した燃料電池です。高効率の燃料電池の中でも、セラミックスを電解質としたものはより高い実効率が見込まれますが、高出力と耐久性の実現には構造や材料をさらに工夫する必要があります。「島根は安来鋼の聖地で、大学には金属材料のプロも多い。金属の機械的特性を生かした燃料電池を生み出せないかと考えています」。





サプライヤーからの電話に対応する安達さん。

島根大学では法文学部社会システム学科経済コースに所属し、情報技術を活用した経済学を学んでいた安達さん。大学時代に得た知識や研究成果を生かしつつ、生まれ育った島根で働ける場所を探していた時、指導教員に勧められたのが、オネストでした。自社製品の企画から製品開発、営業までを一貫して行う県内では珍し

### 情報技術を活用して 生まれ育った地域に貢献 日本の製造業発展も狙う

腐れ。メーカーとの緩衝材的な役割を担いつつ、できるだけ横文字や難しい単語を使わないようにするなど、分かりやすい操作指導を心掛けています」と安達さん。実際にソフトを導入した県内外の企業に足を運び、操作説明会を開催するなどのシステム導入の支援を行っています。「コロナ禍でオンラインが続きましたが、やはり表情や反応を直接感じ取れる対面支援の方が、効果やお互いの思いが伝わりやすいと感じます。当初は尻込みしていたお客さんが、ソフトを活用できるようになって助かりましたと感謝して下さる時が一番やりがいを感じます」。



お客様と打ち合わせをする安達さんと藤江さん。4月に入社した藤江さんは、島根大学総合理工学部知能情報デザイン学科卒業の新戦力です。

そんな安達さんが、在学中の学生に向け、メッセージをくれました。「オンラインでなく、外に出て友人と遊んでほしい」。SEやプログラマーと言え、パソコンに向かっているようなイメージも抱きがちですが、実は顧客とのコミュニケーションが最も重要だと言います。「生身の人間であるお客さんから直接要望や困りごとを聞き、必要なアプリケーションを生み出したり、解決したりするのが仕事。学生時代に仲間と過ごす時間は、多くの仕事にも生きてくると思います」。

いパッケージメーカーです。「松江に本社を構えつつ、自社商品を全国各地に販売していると知って興味が増えました。今後、どんな需要が伸びるであろうITを利活用して、地域に貢献できると感じました」。オネストは現在、日本全国の中堅から大規模メーカー約150社と取引があり、e商買の稼働実績は275事業所、サプライヤー5万社に上ります。「目標は、e商買の導入企業を200社に伸ばし、製造業における取引をより円滑化し、日本の製造業の発展に貢献することです」。

技術や知識はほぼなかったと言います。しかし今では、システムエンジニア(SE)の能力も身に付いています。「入社後に手厚い研修があった上、同じ部署の先輩からも丁寧な教えてもらったので困るようなことはありませんでした。特にSEとして金融機関に派遣された10年間は、非常に大きな経験となりました。金融系SEはシステムの不具合で信頼性を大きく失う可能性が高く、障害は許されません。ミスをしないためのノウハウが身に付き、自信にもなりました。理系じゃなくても大丈夫。僕が出来ているってことが証明です」と笑顔を見せます。

#### 読者の声 Voice

広報しまだい vol.54に寄せられた声をお届けします。

島大の新しいロゴマーク、3本マークがご縁を感じられて、とても良いと思います。

(島根県松江市・40代女性)

島大生が、松江市と関わる姿をもっと見たいです。

(島根県松江市・50代女性)

「100円弁当」販売とても良いことだと思います。学生も物価高で大変だと思うので、今後も継続を期待しています。

(島根県出雲市・70代女性)

なんととっても工学部(エネルギー)ができたことが一番うれしい。卒業生が県内に勤めることを期待しています。

(島根県出雲市・80代男性)

一般の人にも理解しやすい話題で、社会と大学の関わり活性化に繋がる企画を期待しています。

(長野県岡谷市・30代女性)

Creates the Future  
HUMAN OPEN NETWORK  
社会で活躍する卒業生  
A graduate of Shimane University  
No. 18  
サプライヤーサポート

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB。OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は株式会社オネストに勤める安達さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile  
安達 弘幸 さん  
株式会社オネスト  
システム製品開発本部  
サプライヤーサポートユニット 主任  
島根県松江市出身。2006年に法文学部社会システム学科(現:社会文化学科)経済コースを卒業。ソフト開発を担う株式会社オネストに入社。入社後にはSEの技術や知識も身に付け、現在は製造業DXを推進する自社開発ソフトのシステム導入支援業務などを担当。

製造業のDXを推進する  
自社開発ソフト導入支援  
顧客の連携に大きく注力

コロナ禍やウクライナ危機が世界中にもたらした影響の一つが、レジリエンス(復元可能性、変化や不測の事態への対応力や回復力)への意識です。サプライチェーン(供給網)の混乱に拍車がかかる中、製造業では、「何を、どこで、どの程度つくり、どのように供給するか」という命題に迅速かつ正確に対応することが、企業の生命線になってきたのです。そんな中、急激に重要性を高めているのがDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進。株式会社オネストが開発した製造業向け調達業務システムの新製品は、仕入先の評価機能なども備え、メーカーとサプライヤーの強い連携につながるとして高い注目を集めています。

システム製品開発本部主任の安達さんは現在、自社開発のパッケージソフトウェア「e商買DX」のシステム導入支援などを担当しています。大手メーカーの場合、サプライヤーが100社から1000社を超えることもありませんが、発注先の選定は担当者の勘や経



# しまだいい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

## 1 島根大学の諸活動を透明化・可視化 第一回学長定例記者会見を開催



5月24日、学長定例記者会見を開催し、3つのテーマについて説明しました。

1つ目は、「地域中核・特色ある研究大学」として始動！。本学が採択された文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」について、

同事業の意義や今後の展望について説明しました。2つ目は「地域期待の材料エネルギー学部スタート！」。今年度からスタートした「材料エネルギー学部」について、初年度入試の結果を報告したほか、教育の中核となる「アントレプレナーシップ教育」の展開について説明しました。3つ目は「創発的研究支援事業に本学から初採択」。学術研究院医学・看護学系の藤田幸教授の研究「損傷後の神経回路修復を促す手法の開発」が、島根県から初めてJST創発的研究支援事業に採択された件について説明しました。本学は、より多くのステークホルダーに本学の活動を理解いただけるよう、今後も定例的に学長による記者会見を行ってまいります。

## 4 最新鋭の放射線設備で島根県のがん治療に貢献 放射線治療棟竣工記念式典を開催



島根大学医学部附属病院は、4月29日に放射線治療棟竣工記念式典及び内覧会を開催しました。放射線治療棟が入っている高エネルギー診療棟は、築40年を超え、老朽化が進んでいたため、放射線治療棟を新営し、最新の放射線設備を整備することとなり、このたび竣工を迎えました。

式典では、服部泰直学長、椎名浩昭病院長の挨拶の後、文部科学省高等教育課大学病院支援室長の永田昭浩様、島根県健康福祉部長の安食治外様よりご祝辞を賜りました。式典終了後は、テープカットとともに内覧会を開催しました。今回導入されたリニアック機は、がん病巣を特定し、呼吸などで動く患部を追尾する機能があり、より精度の高いピンポイント照射が可能です。放射線量も軽減され、副作用が少ない効果的な治療を行うことが可能となりました。今後、1日あたり約40名の治療が見込まれていますが、患者さんのプライバシーにも十分配慮したきめ細やかな治療を提供するとともに、引き続き島根県のがん治療に貢献していきます。

## 2 JASRIと包括的連携協定を締結



4月13日、本学と公益財団法人高輝度光科学研究センター（JASRI）は包括的連携に関する協定の締結式を行いました。JASRIは、世界最高レベルの放射光を生み出すことができる大型放射光施設Spring-8と、X線自由電子レーザー施設SACLAのユーザーサポートなどを行う公益財団法人です。この4月より、JASRIから2名の研究者が材料エネルギー学部に着任しました。この連携を機に、研究及び人材育成のさらなる加速が期待されます。

## 3 インフラのメンテナンスにおける課題解決を目指す 学会発表で優秀発表賞を受賞



総合理工学部機械・電気電子工学科(当時4年)のAhmad Sharifuddinさんが、3月に沖縄で開催された電子情報通信学会フォトニックスネットワーク研究会第2種研究会学生ワークショップにおいて、「スペクトルパターンを有する光周波数コムを用いた長距離周波数変調連続波型LiDAR」についての研究発表を行い、優秀発表賞を受賞しました。この研究はLiDARによるインフラ形状計測の自動化を目指し、インフラの点検頻度の向上を目指すものです。

## 5 島根大学からは初受賞 日本農芸化学会功績賞を受賞



日本農芸化学会2023年度広島大会において、生物資源科学部の川向誠教授が日本農芸化学会功績賞を受賞しました。この賞は、昭和61年に制定され、農芸化学の発展に特に功績のあった正会員に授与される伝統的な賞で、この度「分裂酵母を基盤とした増殖制御機構とCoQ10生合成」の研究が評価されたものです。島根大学からは初受賞です。

## 6 本庄総合農場と地域との交流の場 「春の農場開放日」を開催



4月15日、生物資源科学部附属生物資源教育研究センター本庄総合農場では、4年ぶりに「春の農場開放日」を開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、200名近い来場者があり、遅咲き品種のサクラを楽しんでいました。サクラ遺伝資源保存園ツアーと、熱帯果樹温室の見学などが実施されたほか、島根大学オリジナル有機質肥料「キャンパス」や、農場で栽培・加工したオリジナルジャムなどの販売もあり、農場と地域との交流の場として賑わいました。

### 読者の声

広報しまだいい  
vol.54に  
寄せられた声  
をお届けします。

この数年で、新しい学部が設置され、進化していく様子が分かりました。  
(島根県松江市・50代女性)

島大、島大生、卒業生を通して島根各地域のつながりが感じられるような記事がたくさんあると、応援したい気持ちが高まります！  
(島根県松江市・女性)

他大学と一緒にあって共同して取り組んでいる研究や事業等紹介してほしいです。  
(島根県松江市・80代男性)

サークルで鉄道研究会の記事がありました。今年、宇都井駅にいった際、島大の方がお手伝いであられて、色々話を聞きました。よかったです。  
(島根県出雲市・60代女性)

卒業生の地元就職を促進するため、地元企業に勤めるOB・OGの声、頑張っている姿を特集してください。  
(島根県出雲市・60代男性)



信頼の実績・高品位ソフトウェア開発

**SOFT KAIHATSU**  
Everything begins with one will.

株式会社ソフト開発

東京本社：東京都町田市鶴間 TEL:042-795-7613  
広島オフィス：広島市安佐南区西原 TEL:082-850-0877

希望に満ちた未来ある若人を応援します

http://www.softkaiatsu.co.jp/

ディーゼルエンジン用部品/産業機械用部品  
鋳物業材~加工完成・組立~貫生産

テクノロジーと信頼で「夢・希望・未来」を創り出す

**ヤンマーキャステクノ株式会社**

(本社・松江事業部) 〒690-0025 島根県松江市八幡町960番地 ☎0852-37-1355  
(甲賀事業部・精密技術センター) 〒520-3233 滋賀県湖南市柑子袋360番地 ☎0748-72-0800

https://www.yanmar.com/jp/about/company/ycat/

~よりよい環境づくりを目指して~

**株式会社 COSMO 建設コンサルタント**

土木設計・測量・地質調査・補償コンサルタント

島根県出雲市斐川町荘原 2226-1  
https://cosmoc.jp/ ☎0853-72-1171

WE LOVE SUN-IN!

楽しい街づくり  
に貢献します

株式会社メリット

TEL.0852-23-2230

一あしたへ、未来へ

地域創造企業

SHOWA

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開くあなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。

株式会社昭和測量設計事務所

TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573

島根大学生協同組合は  
島大生の住生活をサポートしています!

★毎年約700の方が生協でお部屋を決めています。  
★管理物件を募集しています。ご相談ください。

登録部屋数 約1,600室

島根大学生協同組合  
TEL0852-20-0881

NSK 日本システム開発

先進のIT技術で未来を拓く。

日本システム開発株式会社

TEL:0852-28-7175 FAX:0852-28-7233

島根大学総合博物館アシカル

月~土 10:00~17:00 (日・祝日は休館)  
島根大 松江キャンパス内 入館無料

気軽にのぞいてみてね!

広告募集

島根大学企画広報課  
TEL : 0852-32-6603  
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

# 島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年度は、学生7,247名と学生サークル27団体に支援をすることができました。

令和4年度は、皆さまから50,745,835円のご寄附をいただき、延べ7,247名の学生と学生サークル27団体に合計35,618,057円の支援をすることができました。厚く御礼申し上げるとともに、引き続き皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新たな使途として、G区分「外国人留学生に対する支援」を設けました。

島根大学に通う外国人留学生が有意義な学生生活を送ることができるよう支援することを目的に新設しました。物価が高い日本で経済的に厳しい中、勉学に励んでいる外国人留学生へ、奨学金や生活の支援、また、本学の多くの留学生へ奨学金を支給している民間奨学金支援団体への支援を行っています。

支援基金についての詳細は支援基金HPをご覧くださいか、支援基金パンフレットをご請求ください。支援基金へご支援いただける場合は、支援基金HPから手続きいただくか、支援基金パンフレットによりお願いいたします。なお、パンフレットはお電話でもご請求も承っております。

島根大学総務課支援基金担当  
TEL 0852-32-6015  
Mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp  
https://www.fund.shimane-u.ac.jp/

令和4年度支援基金による支援の実績

事業名	人数*	金額
<b>A 経済的理由により修学が困難な学生に対する支援</b>	426	19,102,200
夢チャレンジ奨学金	12	2,400,000
新型コロナウイルス感染症に伴う緊急学生一時金	396	11,880,000
新型コロナウイルス感染症に伴う特別授業料免除事業	18	4,822,200
<b>B 大学の教育・研究活動等に対する支援</b>	6,717	10,817,857
グローバルチャレンジ奨学金	13	2,550,000
中長期インターンシップ奨学金	10	300,000
学生ベンチャースタートアップ支援奨励金	3	600,000
外国人留学生の自主隔離に係る宿泊支援金	11	287,200
県内定着支援金	10	1,500,000
物価高に対する学生支援100円弁当事業	6,670	2,668,000
学生団体等支援事業	27団体	2,411,460
音楽教育振興基金事業	-	302,647
生物資源科学部丸田隆典研究室教育研究活動支援事業	-	198,550
<b>C 附属学園の教育活動等に対する支援</b>	-	0
附属学園教育環境整備事業	-	0
<b>D 次世代たたらプロジェクトに対する支援</b>	-	0
次世代たたら奨学金	-	0
<b>E 学生、不安定な雇用状態にある研究者の研究活動に対する支援</b>	72	898,000
大学院生に対する学会発表等に関する奨学金	72	898,000
<b>F しまね未来人材育成に対する支援</b>	32	4,800,000
県内定着奨学金	32	4,800,000
<b>合計</b>	<b>7,247</b>	<b>35,618,057</b>

\*学生団体等支援事業の人数は含まない。  
※C区分は、事業を安定的、継続的に実施するため、一定額を財源として確保する目的で令和4年度は支援を実施していません。  
※D区分は、学生のニーズと募集要件にミスマッチがあったため、奨学金の支給ができませんでした。令和5年度は募集要項を見直し、学生への支援を行います。

## 島根大学支援基金 寄附者一覧

ご支援ありがとうございました。

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただく仕組みです。パンフレットは上記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

※(単回) 令和5年1月1日~令和5年3月31日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)  
※(継続) 令和4年4月1日~令和5年3月31日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

法人等からのご寄附(単回)	石見銀山建設株式会社	株式会社オネスト	株式会社田部	株式会社テクノプロジェクト	株式会社ミック
個人からのご寄附(単回)	青砥玉枝 青柳和仁 芦田新典 石橋直樹 伊藤幹夫 居原田洋子 岩井陽子 円能寺真一 太田明夫 太田俊男 大庭晃一 大畑俊正 岡田光弘 尾崎 敏 垣羽寿昭 加来洋一郎 梶田康洋 加藤 一 川口公男 川田信行 河原浩一郎 北山新二 吉川 進 久納謙吾 熊澤 修 越野稔子 小谷美保 後藤元興 小林治郎 小佐藤直也 佐山 一 菅井達郎 杉原 明 杉原宏教 陶山 登 大門節子 田後伸実 田中 薫 田中直人 田村邦彦 友口 勝 永田まち子 中山さちこ 名取瑞樹 仁科雅良 野津和夫 橋本正晴 原 恭子 東 正博 平田 栄 深谷光夫 福井 勇 福島律子 福田洋二 藤田達朗 本田雄一 宮井幸子 宮崎和明 村上正和 森奈々子 安原 伸 山口伸一 山本博信 行武禎一 吉田伊佐見 吉田 浩 若栗宣人	個人からのご寄附(継続)	浅田健太郎 新井清市 安齋有紀 石野 眞 伊藤文彦 入江文子 岩下義明 大野純一 岡 明彦 岡田光弘 小高良啓 鬼形和道 勝部毅弘 神谷 要 吉川通彦 境 英俊 坂田正昭 佐藤鮎美 椎名浩昭 篠村恭子 杉浦 健 千家充伸 多久和徹 竹谷 健 田辺義博 塚本元徳 土肥香織 長井敦司 名取瑞樹 縄手雅彦 長谷川裕子 東川 豊 廣瀬昌博 松浦晃幸 松浦良紀 松澤達也 武藤哲也 棟石 均 村松文治 吉岡宏教		

※ご寄附をいただいた際に「氏名の公表」を承諾しないとした方及び記載のなかった方は掲載しておりません。

## 編集後記

昼休みに松江キャンパスのメインストリートを歩いていると、久しぶりの賑わいを感じます。マスクを外して友人と楽しそうに話す学生や、海外からの留学生、サークルの新歓活動。こうしてキャンパス内で学生たちのほつた表情を直接見る機会が増えてきてとても嬉しく思っています。この春には島根大学初の工学部「材料エネルギー学部」の1期生86名も新たに迎え、キャンパス全体が活気づいているように感じます。裏表紙でも紹介しているオープンキャンパスや、10月の大学祭(浜風祭)も対面開催に向けて準備を進めています。本誌ではこれまで以上に生き生きとした島根大学の「今」をお届けしてまいりますので、是非ご期待ください。

## お聞かせください!あなたのご意見・ご感想

投稿のお願い  
「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先  
〒690-8504 松江市西川津町1060  
島根大学 企画広報課  
TEL.0852-32-6603  
FAX.0852-32-6630  
E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp  
HP https://www.shimane-u.ac.jp

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で5名様に、島大農場で収穫・加工した「りんごジャム」「ブルーベリージャム」各1瓶をプレゼントします。  
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。  
※応募締切/令和5年11月2日(木)必着



島根大学でひらく、  
君の未来

SHIMANE UNIVERSITY  
島根大学

OPEN

オープンキャンパス

CAMPUS

≡2023≡



松江キャンパス  
MATSUE CAMPUS

- 8.1 (Tue) 教育学部
- 8.1 (Tue) 材料エネルギー学部
- 8.2 (Wed) 法文学部
- 8.2 (Wed) 総合理工学部
- 8.3 (Thu) 人間科学部
- 8.3 (Thu) 生物資源科学部



出雲キャンパス  
IZUMO CAMPUS

8.5 (Sat)

- 医学部医学科
- 医学部看護学科

ご参加は事前予約が必要です

※予約の申込め切は本学HPでご確認ください

※障がい等で配慮が必要な方は  
事前にお知らせください

松江  
キャンパス

島根大学入試課  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
TEL 0852-32-6073

出雲  
キャンパス

島根大学医学部学務課入試担当  
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1  
TEL 0853-20-2087

